

# 未知へ挑戦し続ける書道家

ただ書くだけではない  
『書』へのマルチな才能

大器晩成…大きな器は完成するまでに時間がかかることから、真に偉大な人物も大成するのが遅いということ。石井さんが好きな言葉

令和4年11月、県立劇場でON PIECE×人形浄瑠璃 清和文楽が上演されました。その題字を手掛けたのが、畑中の石井友美さんです。石井さんは6歳から書道を習い始め、そのまま『書』を仕事に。「書道教室の講師をしつつ知人から頼まれて作品を提供していたら、それがSNSや口コミで広まり、今では県内外から多くの依頼があります」と教えてくれました。

現在も講師は続けており、著名人をはじめ、町内や熊本市で数百人に教えています。「くまモンにも教えているんですよ。指導中は、公式サイトの撮影も入ってドキドキでした(笑)」と石井さん。「令和2年熊本南部豪雨災害の支援を目的に作られた、球磨焼酎統一ラベル『希球』の文字も私が書いたものです。令和4年の『球磨焼酎の日』には、書道パフォーマンスもさせていただきました」と話す通り、

作品制作や全国各地での書道パフォーマンスなど、石井さんは、『書』にまつわることを何でも行っています。

本町でも、ふるさと納税の期間限定返礼品だったON PIECEグッズの『益城町』の文字などを手掛けています。そして、グッズからの縁で冒頭の題字に携わることに。石井さんは、その題字を書いた時の思いを話してくれました。

「原作を見てイメージを固め、この舞台の主役であるチョップの『力強さ』と『優しさ』を書き込めました。」

周りの人たちの推しで夢が後から付いてくる

今後の夢を尋ねると、「実は、やってみてみなかったことは全てかなっているんです」と驚きの言葉が。「夢が後から付いてくる感じです。それだけ皆さんが私を推してくれて、いろんな所に連れて行ってくれるんです。これからも未知の世界に挑戦していけたらと思います」と、目を輝かせました。

下段写真左から／ONE PIECE × 人形浄瑠璃 清和文楽の題字／書道パフォーマンス／町内で目にした人も多しはず。この書も石井さん作(全て石井さん提供)



石井さんの他の作品は、インスタをチェック!

